



2019年11月16日～2019年11月22日

2019年11月26日

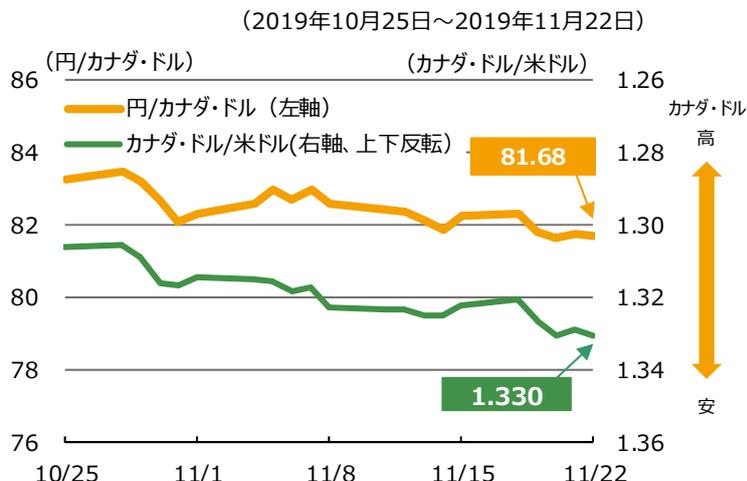
先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で下落しました。また、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいになりました。

カナダの経済指標が良好な結果になったことはカナダ金利の上昇圧力となりましたが、米国金利が低下したことから、カナダ金利は前週末と比べておおむね横ばいになりました。カナダ・ドルは、米ドル安円高が進行したことを受け、対円で下落しました。

経済指標に関しては、小売売上高、CPI（消費者物価指数）が発表になっており、小売売上高は前月比で小幅なマイナスとなったものの、市場予想を上回りました。

カナダ・ドル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

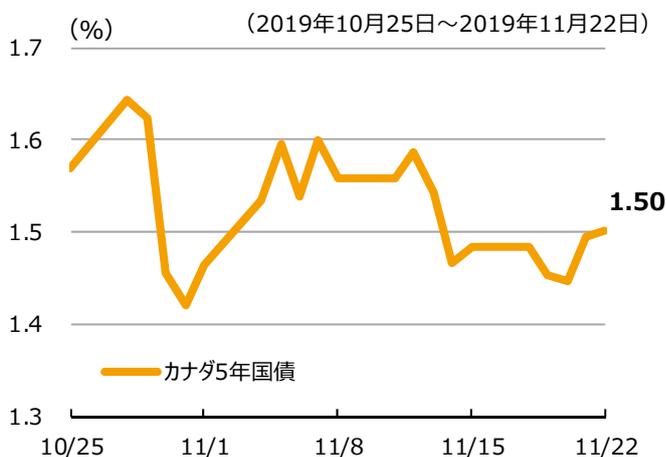
今週の見通し

今週、カナダでは第3四半期のGDP（国内総生産）の発表が予定されています。カナダの堅調なファンダメンタルズが確認出来る結果になれば、カナダの通貨、金利の上昇圧力になることが考えられます。米国でもGDPの発表が予定されています。

カナダでは最大の鉄道会社、カナディアン・ナショナル鉄道の労働者がストライキを実施しており、主要輸出品の移送に支障が生じつつあります。ストライキが長期化すれば、カナダ経済に悪影響を及ぼすことが考えられ、状況を注視する必要があります。

引き続き、米中通商協議の進展などの外部要因にカナダの通貨、金利が影響を受けると考えられるため、動向には注目が必要です。

カナダ 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。